

開催までの2年間 宇宙に関する意識が変わりました！ と語る平間令子さん。
21stAIAA ICSSC で事務局として開催前のAIAA本部との折衝から開催準備、そして大会開催と日米の衛星通信専門家の意見を纏め、日本での大会開催に大活躍された当時を多いに語る！



(株)ICS コンベンションデザイン 平間令子さん

「国際会議」というものを身近なものとして感じたのは、18歳のとき。大学入学前の春休みに、国際会議の受付のアルバイトを始めたのが現在の業務との出会いだった。
(株)ICS コンベンションデザイン 国際会議部で、様々な会議を担当してきたが、今までの会議とICSSCの違いは…。

「ICSSCの委員会が始まったころは、「衛星通信」と「通信衛星」さえもが、ごっちゃになってしまうほど、チンプンカンプンでしたが、今は、「ジュンテンチョウ」といわれてもすぐ頭の中で「準天頂」と変換できる程度にはなりました」と笑っている。
ICSSCに関わる前には、衛星通信どころか宇宙さえも遠いロマンの対象にすぎなかったが、今やTVをみても新聞を読んでも、「宇宙」という言葉に敏感に反応するようになったとのこと。衛星通信の利便性を享受しても、それを可能にしている通信衛星自体の存在については意識したことのない人に認知させていく、それも国際会議の効能の1つかもしれない。

ICSSC 21の実行委員会が立ち上がってから会議開催までの2年間、様々なことがあったがICSSC運営について特に感じたのは、やはりAIAAという権威ある学会の会議を運営していく、ということが大きかったようだ。

「やはり、ICSSCは実際に運営する日本側の組織委員会とは別に、AIAA本部、そして欧米及び日本の委員で構成されるTCCS(通信衛星の技術委員会)と協調してすすめていかなく

てはいけない、ということが非常に大きなポイントだと感じました。」

AIAA 本部とはお互いの担当分担から契約、出展セールスについてミーティングを重ね、TCCS にも 4 回参加した。

「もちろん、母体が大きな学会であり、ワールドワイドな委員会であるということ自体は珍しいことではないのですが、ICSSC では非常に色々なことが真剣に討議されました。

AIAA 本部や TC に対し、日本側のプランや目的を理解し、協力してもらうために、プレゼンテーションをする必要があります。

どのように説明したらきちんと理解していただけるか、欧米の委員の方や本部が納得して下さるか、委員の皆さんと相談して準備をしたので、TCCS が終わると小さな学会が 1 つ終わったような心境になっていました。」

ただし、一環として感じたのが、AIAA 本部も TCCS も日本の実行委員会に対して、非常に協力的な姿勢だったという。欧米側や本部の意見の押し付けではなく、日本で開催する会議については日本の意思を尊重していこうというスタンスは、1997 年開催の ICSSC17 を通じて生まれた日本の実行委員会への信頼の高さだと感じた。

「もちろん、お互いに主張する部分ははっきり言うし、特に技術論文のカテゴリー等譲れない部分もあるので、一瞬硬直する場面もありましたが（笑）」



当時の活躍ぶりを語る平間さん（銀座ワインハウスにて）

「特に、論文を集めていた時期は、9.11 事件の直後で世界全体がニュースに震撼し学会

活動が進捗しないという状況に苦慮しました。大変でしたね！！ でもやるきやないね！
の精神で頑張りました、そうしたら道は開けましたね。大勢参加してくれました。

また、今回から AIAA 本部が所持している WEB 上の論文投稿システムを使用しましたが、
論文著者が自主的に投稿していくというシステム自体まだまだ普及段階ということもあり、
参加者の皆様も戸惑われたかと思います。また、私自身 AIAA 本部の既存システムというこ
ともあり、変更修正が思うにまかせないという状況で色々な問い合わせやご要望に対応し
なくてはいけないので、困ったこともありました。」

すべての計画は日本側でたてながら、論文処理と印刷物については AIAA 本部にまかせなく
てはいけない、という役割分担に対して、全て日本側で実行すれば方が簡単だと感じる面
もあった。

AIAA 本部や TCCS とのミーティングを重ねるうちに、AIAA 本部-ジョアン・ズークさんと
は非常に緊密な関係をきずくことができたという。ズークさんからは、様々な意見をもつ
コミティメンバーの意見を集約しつつ、AIAA のスタンスを明確に打ち出していく強さと
柔軟性を学んだという

「でも、AIAA という大きな母体の中で、欧米と日本の委員が通信衛星のあり方について真
剣に討議し、個々の立場からだけではなく、全体として ICSSC を考えていくためには、や
はりグローバルで統一したシステムを使っていくということも大切、と感ずるようになりました。」



AIAA 本部の Mrs. Zook と平間さん (AIAA ICSSC 21 会場にて)

仕事柄、国際会議についても以下に業務をスムーズにするか、ロジスティックな面での効

率ばかりを優先しがちになっていた自分自身の仕事について、「国際会議の本質とは。どのようにしたら参加者の皆さんに喜んで頂ける国際会議を作り上げていくことができるか」と、改めて振り返るきっかけになったという。

「ICSSC 終了後も、「宇宙」や「衛星通信」という言葉に非常に敏感になったように感じます。私自身だけではなく、2004年度は宇宙関係の展示会事務局や、地球観測サミットの運営を手がけるなど、会社自体宇宙関係のお仕事と縁が多くなったような気がします。これも ICSSC21 の縁かもしれません。今後も、衛星通信の世界に注目していきます。」
1つの会議から、次々にネットワークが広がる、これこそ ICSSC の開催意義かもしれない。



AIAA ICSSC 21 大会事務局にて会場をモニターする平間さん

衛星通信システムは日本国の、世界の重要なインフラですよね！ 宇宙は無限だし将来はきっと宇宙人と交信できるでしょう、それも衛星通信、いや宇宙通信が活躍して！！

(聞き手 編集委員会特別顧問 北爪 進)